

モラル・ハラスメントを許すな！(21) 急増！デートDV！



デートDVとは、デートにおけるドメスティックバイオレンス。恋人間における暴力のことだ。最近、日本で急増していると新聞は伝えている。単純に支配欲だけでは、“急増”の理由は捉えきれない。いくつか考えられることを挙げてみたい。

(1) 人は自分がされたことを 人(動物)にする

例えば、親が上の子を怒ると、上の子は全く同じような形で下の子に当たる(兄弟を持つ親御さんはよく観察してみると良い)。人間自分がされたことを吐き出さないとバランスがとれない。「フラッシュバック」という実際の話をまとめた本に出てくる女性は、自分が浴槽に沈められたように、かわいがっていたカナリアを水槽に沈めた…。

(2) 人は精神的にされたことを 物理的に吐き出そうとする

ある女の子は、近所の女の子を閉じこめた。いじめた側の女の子は、母親から管理さ

れ、手足のように扱われていた。気持ちを受け止めてもらえぬ見えない監獄の中にいた。つまり、精神的に監獄に入れられた女の子は、自分が親からされたことを、物理的に他の女の子にしたのである。

(3) 幼い頃の家庭環境の影響

「暴露本」を書いて話題になっている石原真理子も一つの典型的な例であるが、親の夫婦間の暴力を見て育つと暴力に対する感度が鈍くなる。彼女のように暴力を容認する女性に育ったり、女性に安易に暴力を振るってしまうようになる。ある青年は、血だらけで道ばたに倒れている人を見てさほどの感覚も湧かず、周りが大騒ぎしているのを見て初めて自分がおかしいのではないかと気づいた。彼の家では血を見る惨事は日常だった。

(4) 社会環境

北朝鮮では道ばたに人が死んで横たわっていても、何の感慨もなくその脇を人々は通り過ぎていく。生物は環境に適応して生きていく。人も同じ。残念ながら、どのような環境にも慣

れることができる。ある青年。女の子の調教ゲームを何の感慨もなくやっていた、と今は恥ずかしげに告白した。

(5) ディスカウントの限界

ディスカウントとは、自分の人間としての価値を値引いて見られること。親から支配を受け、あるいは手足のように扱われ、あるいは無視され…つまり、共通点は自分の感情を無視され、自分の気持ちを受け止めてもらえないことなのだが…これが続くと自分がどんどんすり減って行って、もうこれ以上、髪の毛一筋ほども自分をバカにされたくない、蔑まれたくないということまで来てしまう。ヒリヒリして生きようになる。すると、ほんのわずかでも自分の存在をないがしろにするような言動があるとキレル。

アメリカ生活に役立つ情報満載！ パビリオン定期購読

【個人購読】

■必要事項■(※別紙にご記入ください。)

<選択> 12ヶ月購読希望 (\$24)
 毎号2冊での12ヶ月購読希望 (\$44)

<必須>

Name(Company Name):

Address:

Zip:

TEL:

E-mail:

●月一回発行(毎月月末)※米国内のみ/日本郵送は別途

毎号1冊×12ヶ月(計12冊)=\$24

毎号2冊×12ヶ月(計24冊)=\$44

※バックナンバーをご希望の方は発行年月(または号数)をお知らせください。上記同料金でのカウントとなります。<2006年4月1日改定>

【グループ購読】

■必要事項■(※別紙にご記入ください。)

<選択> 20冊/12ヶ月購読希望 (\$350)
 40冊/12ヶ月購読希望 (\$600)

<必須> ※お届け先は一ヶ所のみでお願い致します。

Name(Company Name):

Address:

Zip:

TEL:

E-mail:

●月一回発行(毎月月末)※米国内のみ/日本郵送は別途

毎号20冊(計240冊)=\$350(お一人・年間\$17.50)

毎号40冊(計480冊)=\$600(お一人・年間\$15)

※小部数または40人以上の大部数でも対応可能です。別途、お問合わせください。

■お申込・送付先■

To : Pavilion Graphics Inc.

1699 Wall St. Suite 210, Mt. Prospect, IL 60056

E-mail: pavilion@johoya-usa.com

■お申し込み方法■

上記、必要事項を別紙にご記入(またはE-mail)、チェック添付の上、下記宛先までお送り下さい。チェック受取り後、弊社よりE-mail(またはTEL)にてご連絡させていただきます。

※E-mail(またはTEL)ご連絡先を必ずお知らせ下さい!



(6) 自己認知飢餓

左記のような環境で育つと親からストローク(相手を認める働きかけ)をもらえないので、深刻なストローク飢餓に陥る。心の中に、自分の存在を認めてほしいという「飢えた鬼」が棲むようになる。そのため、恋人となった相手には、自分以外の何者にも目を注ぐことを許さないくらいに強烈に自己認知を迫る。(その何者が、異性でなく同性であれ、モノであれ、はたまた自分たちの子であれ…)
DVをする男性がしつこくメールするのも、他のメアドを消そうとするのも、その他、強烈な束縛行為は自己認知欲求の現れ。

(7) 肌触れ合う遊びの消滅

私たちが小さい頃は、子どもの縦社会が残っていた。そして、年齢混交、男女混交で馬跳びその他、肌の触れ合う遊びもしていた。たとえ親がどんな親であれ、その子ども社会の中で浄化されたものだ。小さい頃にそういう触れ合う遊びをしていれば、暴力などなくなる。命の大切さなど言葉で教えなくても肌で学ぶ。親が認めてくれなくとも、子ども社会が認めてくれる。子ども社会の存在は、人間社会の安全装置だったのだ。

上記(1)~(6)の共通点は何だろうか。そう、女性を暴力という手段で支配しようとする男性自身が、既に親からの支配を受けていると言うことである。いずれも、自分の気持ちを受け止めてもらっていない。

気持ちとは、その人そのものであるから、それは人として認められていないと言うことを意味する。核家族は、地域から遊離してブラックボックスになっている。家はおあつらえ向きに、マンションなど支配しやすいような監獄構造になっている。子どもは、学校という監獄と家という監獄の点と点間を移動しているだけで、社会の中に生きていない。そして、親は生まれた頃から子どもを支配して競争のルールの上を走らせようと全力を挙げている。

… ちょっと書き過ぎかも知れませんが…、DV男性は幾何級数的に増えると思う。支配は連鎖する。これまでも、モラハラやDVのシリーズでも解説してきたように。これだけ国民が荒れているということは、国が国民を支配しようとしていると言うことを示している。国民は国の鏡だから、そう言わざるを得ない。この怖さを見ても、国はまだ、国民を支配しようとするのだろうか…。
今成すべき事。
地域社会の再生。
その目的は、ラッキー7！
そう、子ども社会の再生。
ダメになった大人たちが変わって、子供たちに希望を託していくしかない。



尚、「暴力」というと、肉体的のみならず精神的な暴力もさすのだが、日本ではもっぱら肉体的な暴力をイメージすることが多い。

そこで、次のような言葉がイルゴイエヌの『モラル・ハラスメント一人を傷つけずにはいられない』という著作と共に普及した。

- 夫婦間における精神的な暴力=モラル・ハラスメント(精神的な嫌がらせ=直訳)ハラスメントは、「嫌がらせ」と訳されているが、「精神的暴力」と言う方がふさわしい。このハラスメントの派生が次の語群だ。
- セクシャルハラスメント(セクハラ)=異性間の精神的暴力
- パワーハラスメント(パワハラ)=権力構造間(上司部下)の精神的暴力
- ドクターハラスメント(ドクハラ)=医者による精神的暴力
- アカデミックハラスメント(アカハラ)=大学教授による精神的暴力
- …まだまだ出てきている。

言葉は現象を切り取ってくれる。名前がつくことにより、その現象を認識しやすくなる。ああ、自分がしていたのは、あるいはされていたのはこれだったんだ、と気づきやすくなる。そして、その現象が多様で多岐に渡れば渡るほど、それに関する語群は多くなる。たとえば、天気用語もその国の気候によって充実している語群が異なるようだ。雨や霧に関する用語が多い国もあれば、風に関する用語が多い国、雪に関する用語が多い国もある。また、温暖化によって、日本でも35度以上は「猛暑日」というのが新設される。

つまり…今の日本は、バイオレンス(肉体的暴力)やハラスメント(精神的暴力)の現象が多様で多岐に渡っていると言うことだ。簡単に言えば、あらゆる層、あらゆる職種に「暴力が蔓延している」ということである。暴力の本質は、ディスカウント。つまり、人を人扱いしないとすること。硬く言えば「人権無視」一人としての尊厳が侵害されていると言うことだ。いつから、人権無視の言葉が蔓延する、こんな恐ろしい国になったのだろうか？

(中尾 英司)

急増！暴力関連用語

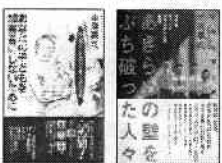
ついでに、ちょっと整理しておこう。

- バイオレンス=暴力
- ドメスティックバイオレンス=家庭内暴力(=直訳)しかし、日本では
- 「子どもから親への暴力=家庭内暴力」としていたために、
- 「DV(ドメスティックバイオレンス)は、夫婦間の暴力」と区分して用いられている。(ややこしい)そこへ、恋人間の暴力もクローズアップされてきたために次のような区分ができた。
- 夫婦間における暴力=DV
- 恋人間における暴力=デートDV

<著者紹介>

中尾英司(家族相談士・シニア産業カウンセラー)

- メール:sodan@jiritusien.com
- プロフィール:電話&メール相談、及び直接ご家庭に伺って家族カウンセリングを行い、虐待、ADHD、窃盗癖、ギャンブル依存、モラハラ、DV、離婚、会社のセクハラ・パワハラの問題などを手がけている。組織改革を成功させた後、会社の風土改革から家庭の風土改革に軸足を移す。シニア産業カウンセラーの育成、講演依頼COMの講師、テレビ東京「朝は楽しく!」の「我が家の事件簿」のコーナーでコメント出演。
- 著作:「あきらめの壁をぶち破った人々」(日本経済新聞社)
「あなたの子どもを加害者にしないために」(生活情報センター)
- サイト:「中尾相談室」、「組織改革ご支援.COM」。(←Google入力)
- ブログ:「あなたの子どもを加害者にしないために」
- ※中尾先生のオンライン講座も開講中です。詳しくはサイト[中尾相談室]を参照。



富士山コムでも購入可能です。
(www.fujisan.com)
富士山.com は海外在住(アメリカ・カナダ)の方のために日本のあらゆる商品をお届けするオンラインショッピングサイトです。